

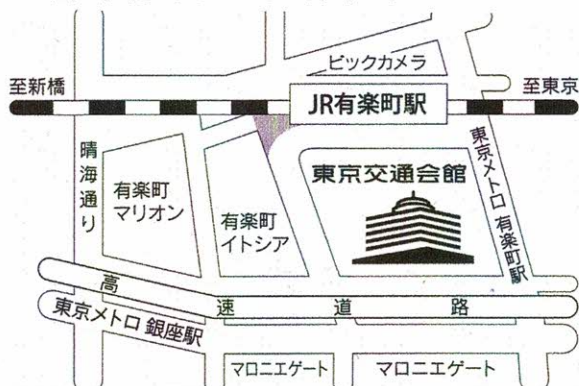
核兵器禁止条約発効記念
文化・芸術振興企画

ヒロシマの高校生が描いた 第3回 「原爆の絵」 展in有楽町



【日 時】2021（令和3）年8月8日（日・祝）～14日（土）
午前11時～午後6時（初日は午後1時～、最終日は午後5時）

【場 所】東京交通会館1Fギャラリー「パールルーム」
（東京都千代田区有楽町2-10-1 東京交通会館1F郵便局隣り）



【協力金】500円（税込：中学生以上） ※小学生以下は無料

〔核兵器禁止条約の発効を記念して、先着100名様に神石高原町のおみやげをプレゼント〕

主催 井伏鱒二先生生誕120周年記念「黒い雨」プロジェクト実行委員会
（広島県神石郡神石高原町小島1733 歴史と文学の館「志麻利」内）

協力 秋田雨雀・土方与志記念 青年劇場／(株)くもん出版／(株)写真弘社
(予定) ひろしまブランドショップTAU／中越パルプ工業(株)／(学法)東京マスダ学院
後援 城南信用金庫／(一社)日本フロンティア・ネットワーク／(一社)東友会
(予定) 広島基町高等学校同窓会／福山誠之館同窓会／ふくやま文学館／神石高原町

～次世代と描く「原爆の絵」～

いま広島で、県内各所で展覧会が開かれたり、各方面から交流を求められ、TV・ラジオ・新聞・演劇などメディアを大いに賑わせている高校生たちがいることをご存じでしょうか？

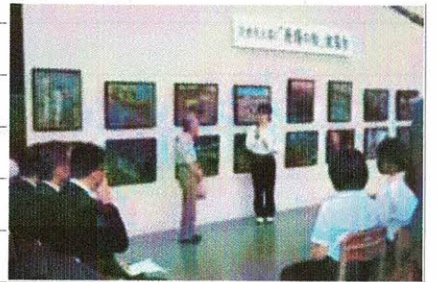
その高校生たちとは、広島市立基町（もとまち）高校の美術部に属する有志生徒です。彼ら・彼女らは見た目には普通の高校生ですが、被爆者から約半年～1年をかけて被爆体験や原爆被害の実相を幾度も聞き取り、資料を集め、より実情に近づけるべく、1人ひとりが個性や感性を最大限活かし、丁寧に細部を書き足しながら（被爆者は絵を目の前にすると次々と新たに当時の記憶が呼び覚まされると言われます）、油絵を創り込んでゆくのです。



被爆者のお話に誘（いざな）われ、自らも原爆投下のあの日にタイムスリップして追体験する…その取り組みは生半可な心身でできるものではないといえます。時に心や身体のバランスを崩す生徒もいるとのことですので、高校生といえども、いかに被爆者に寄り添い、真剣勝負であるかが察せられます。



こうした一連の協同（共同）作業によって、語り手の被爆者と聞き手・描き手の高校生の想いや意識が一体化した時、完成した絵は高校生のもと思えないほどの凄味（圧倒的な存在感と説得力）を持って観る者に迫り、心を揺さぶります。ただ、その凄味は、原爆の恐ろしさや戦争の悲しみ、やり場のない憤りや静かな怒りなど、様々な悲哀の表情にとどまりません。



未来ある高校生が挑み、描くからこそ、絶望が支配する絵の中にあって「自分たちが被爆者の想いを継いでゆくのだ」といった誓いや平和への願い、力強い意志がメッセージとして映し出され、観る者に一筋の希望や勇気をも与えているように感じます。

井伏鱒二先生生誕120周年記念「黒い雨」プロジェクト実行委員会とは

当会は、団体名の通り、井伏鱒二先生の生誕百二十周年にあたる2018（平成30）年より、1年限りでなく継続して、井伏先生が原爆小説「黒い雨」を通じて後世に伝えたかったであろう【戦争の愚かさ・醜さ】、希求して止まない【世界の恒久平和】、そのために欠かせない【核なき社会】の実現に向け、尽力してゆこうと、2017（平成29）年冬に「黒い雨」ゆかりの地：広島県神石高原町で発足。井伏先生が文豪で趣味人でもあったため、様々な文化・芸術関連団体と連携、その支援・協力にも努めています。

世界を席卷する長引くコロナ禍、台頭しつつある覇権主義や独裁主義、これらに伴う貧困や格差など、世界中が悲しみや不安に襲われる中、今年1月22日、人類史上、画期的な「核兵器禁止条約」が無事に発効されました。当会では、混沌とした今だからこそ「基町高校美術部」や「原爆の絵」の存在を1人でも多くの首都圏の皆様に見知って、若い世代の活動から勇気と元気をもらってほしいと考えています。今夏も、親子や夫婦、友人など大切な方々と、平和について深く考察するきっかけとなれば幸いです。

<問合せ> 井伏鱒二先生生誕120周年記念「黒い雨」プロジェクト実行委員会 東京事務局
（担当：大越）TEL：090-2754-5652 メール：ohkoshi@vega.ocn.ne.jp